現職校長や企業代表者、日体大准教授による解説等を実施し、充実した研修会になりました。

毎年八月には、教員採用試験二次試験対策を中心とした研修会を開催しております。

大学の資料によりますと、卒業後に教職に就く学生は約二割、企業に就職する学生が約六割と、圧倒的に企業就職が多い状況が見られます。

同窓会といたしましても、今後の活動には企業で活躍されている同窓の皆様のお力が不可欠と考え、協力を得ながら活動の充実を図ってまいりたいと考えております。

同窓の皆様には、何卒ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東部地区として

東部地区長
小山町立小山中学校
鈴木　宰（昭55卒）

平成二十八年度より東部地区長を務めさせていただいております。

東部地区としましては、十分とは言えませんが、諸先輩の方々のお力で組織力の強化等を中心に活動を行ってきました。しかし、昨今の卒業生の就職状況により、より運営が難しくなってきたことも事実です。

さらに、ご承知のように静岡県は東西に長く、その距離は二百キロ近くにおよんでいます。東は関東圏。西は中京圏と言っても過言ではないほどです。また、静岡市・浜松市が政令指定都市になり、平成二十九年度より権限移譲が行われ行政を中心に教育界においても、様々な課題が表面化しています。

東部地区として、静岡県における東の出入りとしての情報収集を綿密に行い、より一層東部地区、県内同窓会の発展に少しでも寄与できればと考えております。県同窓会総会、十二月に行われます富士山女子駅伝の応援など、東部地区をあげて取り組んで行こうと共通理解をしているところです。

今後も、東西に長い静岡県ではありますが、オール静岡で活動するためにも多くの皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

組織作りへのチャレンジ

中部地区長
静岡市立中田小学校
櫻田人士（昭55卒）

中部地区長を拝命し、四代の会長のもとで仕事をさせていただいております。諸先輩方のご指導や役員のご協力を受けておりますが、思うように活動が進んでいないのが現状です。同窓生の動向がなかなかつかむことができず各支部とも組織作りが軌道に乗らないために、会費納入率の低下、同窓会活動への敬遠など課題がまだまだ山積しております。日体大同窓生としての太い絆と誇りを信じ、一層努力をしていきたいと思います。この紙面をお借りし、中部地区同窓生のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

現在、静岡支部・清庵支部・志榛支部ともに組織作りが大きな課題となっています。かって静岡支部では、高校・中学・特別支援学校・教育委員会関係・一般、それぞれ担当者を配置し年会費の徴収を行っておりました。当然横・縦のつながりも強く、だれがどこに所属しているかもすぐに判明していました。会員名簿の存在も大きな支えになっていたことは当然でしたが、「日本体育大学卒業生」としての結束した力、つまり「団結和協」が根底にはあったのではないでしょうか。

大学から出されている「活性化推進基本計画 ～黎明～」によれば、これからの変化に対応した新たな仕組みづくりの中で大切なことは、協働・ヨコの連帯・双方向・多様な個・分かち合いと明記されています。「緩やかなつながり」を今求められているのです。日体大卒業生としての魂を継承しつつ不易と流行を踏まえた仕組みづくりにチャレンジしていきたいと思っています。各支部の組織作りと年代ごとの代表者を選任することにまず一歩を踏み出したいと思っています。「元気で行こう！日体大」のスローガンのもと、日体大静岡県同窓会組織の充実・発展のために中部地区同窓生の力を結集させましょう。

同窓会活動の将来を見据え

西部地区長
浜松市立河輪小学校
神谷昇吾（昭55卒）

昨年夏に行われた、リオ、オリンピックでは、多くの日体大の関係者が活躍しました。また正月恒例の箱根駅伝でも日体大駅伝部の学生が襷を繋いでゴールまで走り抜き、頑張りました。

さて、私が日体大を卒業して三十数年が経ちますが、入学当初先輩によく言われたことの一つに「日体大生が東京オリンピックの手伝いをした。」と言われました。それから何回かのオリンピックがありましたが、そのたびに日体大生や同窓生の活躍に同窓生の一人として嬉しく思っています。母校日体大は、かつては教員養成の大学でしたが、最近では教員以外に就職を希望する学生が多いと聞いています。同窓会の活動も今までは、教員中心に行われてきたと思います。しかしこれからは教員以外の卒業生が多くなると予想されます。オリンピックで素晴らしく活躍する